

露地ぶどう ベと病に注意！

1 発生と今後の状況

- ・平年と比較して、7月上旬の最低気温が低く、降水量が多いため、べと病の多発が懸念される。
- ・向こう1か月の降水量は、平年と比較して多い確立が40%と予想されており、発生に注意が必要。



図1 ぶどう葉表のべと病病斑



図2 ぶどう葉裏の白いカビ

2 防除方法

- (1)べと病は、一度発生すると急速に被害拡大することが多いため、ほ場の見回りをこまめに行う。
- (2)発生園地では、使用時期に注意し、薬剤防除を行う(表1)。
- (3)発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- (4)Qoi 剤(FRAC:11)は耐性菌が生じている園地では使用しない。その他の園地でも、1作1回程度の使用に努める。
- (5)発生園地では、収穫後にも防除を行う(表2)。

表1 収穫前の防除薬剤

薬剤名	系統	FRAC	希釈倍数(倍)	使用時期	本剤の使用回数
エトフィンフロアブル	カルボキシアミド	22	1000	収穫7日前まで	4回
レーバスフロアブル	その他	40	2000~3000	収穫7日前まで	3回

※一般に小豆大以降の散布では果粉溶脱のおそれがあるので注意する。

表2 収穫後の防除薬剤

薬剤名	系統	FRAC	希釈倍数(倍)	使用時期	本剤の使用回数
ICボルドー66D	無機銅	M01	25~100	—	—
ICボルドー48Q	無機銅	M01	25~50	—	—

※デラウェアでは66D、大粒系品種では48Qを使用する。

- Web 版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)